

医学系の学会で 神社のブースや講演!?

社会医療法人喜悦会 那珂川病院 血管外科
NPO法人足もと健康サポートねっと 代表

竹内一馬

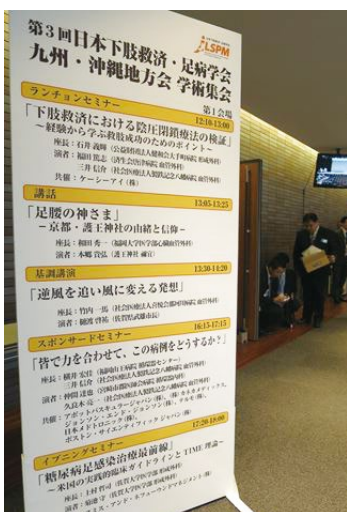
この度、平成二十六年十月十一〜十二日に福岡市にて第三回日本下肢救済・足病学会九州沖縄地方会学術集会ならびに市民公開講座を主催させていただきました。学会は関係者を含むと約五五〇名の参加、市民公開講座は延べ一、三〇〇人を超える一般市民の来場があり、盛会に終えることができました。

「なぜ、護王神社の社報で医学系学会の報告が?」と思われる方も多いでしょう。学会の市民公開講座において、前代未聞かもしれませんが、実は医学学会にもかかわらず護王神社さんに多大なるご協力をいただきました。

まず学会のことを簡単に紹介したいと思います。本学会は糖尿病や下肢血流障害などが原因による壊疽や下肢切断の救済・回避・治療とそれらに関わる問題を積極的に取り上げる場として平成二十一年に設立さ

れたまだ若い学会です。単一診療科の医師だけでなく、足の診療に関わる糖尿病科、循環器科、血管外科、形成外科、整形外科、皮膚科、腎臓内科、リハビリテーション科や看護師、義肢装具士、理学療法士、靴屋などの多くの診療科・職種が参加しているのが特徴です。九州・沖縄地方会は北海道について全国に二番目に発足した地方会で今回が第三回目を迎えました。

医師、病院だけではすべての足のトラブルは解決できていないのが現状です(もち



たけうち かずま
京都市出身。福岡大学医学部卒。医学博士。
日々の診療の傍ら足の健康啓発のため全国各地でイベントや講演活動を行っている。

ろん足の領域に限ったことではありません(が)。病院を受診した時点で既に助ける術もない状態に陥っていることがあります。我々はそういった方々を一人でも多く救いたいと思っています。ではどうすれば良いでしょうか?皆さんの足が取り返しのつかない状態になる前に早く気付いていただく、こんな病気がご自身の身にも起こることがあるのだ、ということを知っていただきたい。異変を早期に発見し、早期のうちに治

療を行うことが一番の近道であると思っています。しかし、これらのことは医療機関だけでは解決できないことだと感じ、五年ほど前から民間の義肢装具士、靴店などを一緒に「足の健康を啓発」するために「NPO法人足もと健康サポートねっと」を立ち上げ、診療の合間に活動を続けています。紙面の制約もあり、詳しくご紹介はできませんが、公式ホームページやフェイスブックページなどをご覧になっていただきたいと願います。

市民の方に学んでいただくために講演を聴講してもらっただけではなく、相談コーナーも充実させたい。さらには御参りできるコーナーも設けたいというのが、長年温めていた企画のひとつでした。足の仕事を



していたお陰と筆者の出身が京都であるというご縁も重なり、以前から護王神社さんが「足腰の守護神」であることを知って何度が伺っていましたので、何とか文室宮司、本郷禰宜にご快諾いただき、実現することができたという経緯です。神社の紹介ブー スだけでなく、絵馬を無料授与、短冊による足腰健康の御祈願までしていただけたし、二日間とも本郷禰宜に御講話もいただき大変好評でした。

このような活動が下肢救済医療の発展に貢献し、医療従事者のみならず、足に関わるさまざまな業種に対しても知識・技術の普及・促進につながるきっかけになればと切に願っています。

困っている方や悩んでいる方をお支えするのは神道も医学も通じる物があると思っています。超高齢化社会の中、足(脚)にトラブルをもった方は今後が増えることが予想され、国として地域として対応していくことが急務です。微力ながら、これからは一人でも多くの足の健康を守っていきたいと思います。本項を読まれてハッと思われた方は、是非、愛おしい自分のそしてご家族の足を観察してみてください。